

Press Release

県内60歳以上のアクティブシニア935人を対象に 日常生活・社会参加活動について意識調査を実施しました!!

■調査の目的

高齢者が心身共に健康で、生きがいを持ち地域の担い手として活躍していただくための諸方策を検討するため、当財団の事業参加者から、今後地域の担い手として活躍が期待される60歳以上の人を対象に、「健康、生活、生きがい活動等」に関するアンケート調査を実施しました。

■調査地域 群馬県全域

■調査対象 935人

当財団の事業参加者から60歳以上の935人を「60歳～64歳、65歳～69歳、70歳～74歳、75歳～79歳、80歳以上」の5段階の年代に区分。

■調査内容

ア 基本属性に関する事項
(健康・幸福感等)

イ 日常生活に関する事項
(新型コロナウイルスに関する意識調査等)

ウ 社会参加活動の実態に関する事項

■調査方法 郵送調査

■有効回答数 416人(回収44.5%)

■主な調査結果 (要旨)

① 健康状態

「よい」29.8%

「まあよい」31.0%

② 会話の頻度

「ほとんど毎日」80.0%

「2～3日に1回」10.6%

③ 幸福感調査

「幸せだと感じている」53.6%

「やや幸せだと感じている」33.4%

④ 会話の頻度と幸福感の関係

(幸せと感じる割合)

「ほとんど毎日している人」93.4%

「2～3日に1回」72.7%

⑤ 新型コロナウイルス感染症が長期間にわたり流行していることで困っていること。

「外出の機会が減った」63.2%

「人と話す機会が減った」54.3%

「運動不足で筋力や体力が落ちた」46.4%

会話の頻度は「ほとんど毎日」
会話している人が80%。

当財団の事業参加者は87%が
幸せだと感じている。

「ほとんど毎日」会話している
人は、93.4%の人が幸せだと
感じている。

63.2%の人が外出制限などで「外出の機会が減った」と回答し、外出の減少にともない「人と話す機会が減った」や「運動不足で筋力や体力が落ちた」と感じている。